

## 臨床麻酔学会34回大会

演題名 音楽を利用した周術期のグレードアップ

東京高輪病院麻酔科 斉藤勇一郎

抄録 以下

手術室での音楽の新しい有効利用について紹介する。有線放送や CD プレイヤーを利用している施設も多いであろうが、場面に合わせた音楽の利用法としては調節性に欠ける。私はリモートコントロールのできる bluetooth 対応の小型スピーカーと携帯音楽プレーヤー(スマートフォンも可)を用いている。小児が入室する際、希望する曲をかける。対応するための曲のストックはどうするか。WiFi 環境があれば、You Tube を利用して大抵の希望の曲はかけることができる。ご年配の方のジャズ、演歌希望もしかり。大好きな曲を聞き、いっしょに歌いながら吸入麻酔で眠っていく小児もいる。帝王切開では児娩出とともに誕生日の音楽を流す。母親になったばかりの方の輝く涙をみることができる。手術中は緻細な手技の場面では小さい音量のクラシックや環境音楽、終わりに近づいたら軽快な音楽などと、曲目、音量を変更してゆく。こんなことをしては麻酔がおろそかになるという意見をあえて受けてみたい。我々はプロの麻酔科医である。患者、術者への配慮など、手術場の雰囲気コントロールの役割も持つ麻酔科医にとって音楽の有効利用はその手段のひとつである。